

令和7年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 1 子どもたちに輝く未来をつなぐ

主要課題	No. 11	高校生世代への支援
-------------	--------	-----------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4年後の目指す姿	本人支援や家庭支援の推進により、高校生世代が、生まれ育った環境に左右されることなく、将来の進路選択を適切に行い、自立した大人へと成長できている。	
計画期間の方向性	<p>○高校生世代への支援の推進 高校生世代が将来の進路選択の幅を広げることができるよう、大学受験等の学習支援や資格取得支援等に取り組みます。</p> <p>○高校生世代のいる子育て家庭への支援の推進 高校生世代を取り巻く環境が変化する中、各家庭の負担軽減が図られるよう、支援の充実を図ります。</p>	

事業費（令和6年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）		戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。							
事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割						事業費(千円)
50	青少年プラザ（b-lab）運営事業	児童青少年課	高校生世代の自主的な活動を支援し、社会参加や自立を促進する。						89,939千円 (88,457千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 青少年プラザ利用者数（高校生世代）	人	14,273	15,194	18,091				
	② 中高生が企画したイベント数	件	50	48	86				
	③ 地域のイベントに参画・協力した件数	件	5	5	5				
37	総合相談室	教育センター	不登校や教育に関する悩みを持つ子どもと保護者に、適切な支援を行う。						218,823千円 (220,909千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 教育相談実施延べ回数（一般）	回	816	635	739				
	R5(2023)	相談内容が複雑化・多様化している中で、高校生本人及びその保護者に対し、きめ細やかに対応しています。							
R6(2024)	相談内容が複雑化・多様化している中で、高校生本人及びその保護者に対し、きめ細やかに対応しています。								
51	生活困窮世帯学習支援事業	生活福祉課	生活困窮にある子どもの学習を支援し、自立を促進する。						48,126千円 (48,122千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 高校生世代等学習支援（進学実績）	%	100	100	87.5				
	R6(2024)	高校生世代等学習支援事業の進学実績の内訳は、8人の大学等受験者のうち7人が進学先を決定した結果です。1人は次年度も大学受験を行う予定です。							
52	高校生等医療費助成	子育て支援課	高校生世代のいる子育て家庭に対し、医療費に係る負担を軽減する。						195,627千円 (183,515千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 高校生等医療費助成金額	千円	—	139,666	191,724				
	R5(2023)	令和5年4月から開始しました。							
53	高校生世代育成支援金	子育て支援課	高校生世代を養育する世帯への給付により、次世代を担う子どもたちの育ちを支援する。						319,208千円 (350,852千円)
	主な取組実績								
	R5(2023)	令和5年4月から児童手当の拡充までの間実施します。同年4月から9月までの支給率は94.4%でした。							
	R6(2024)	令和5年10月から6年3月までの支給率は96.9%、6年4月から9月までの支給率は96.2%でした。児童手当拡充に伴い、同月分をもって事業終了しました。							

54	子ども宅食プロジェクト	子育て支援課	子どものいる生活困窮世帯を見守り、適切な支援等につなげる。						57,158千円 (73,253千円)
	主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 宅食配送延べ世帯数	世帯	4,702	5,118	5,510				
	② 登録世帯数(各年度最終配送時)	世帯	658	797	781				

●特記事項(実績の補足)

2	社会ではどのような動きがあったか (社会環境等の変化)	人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何がかったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
有	主要課題に関連する法改正があった(今後、法改正がある)	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった(今後、変化等の可能性がある)	

こども未来戦略(令和5年12月閣議決定)の「加速化プラン」において実施する具体的な施策として、児童手当法が改正され、令和6年10月から児童手当に係る対象年齢が拡大されました。
子どもの貧困への対応の措置を強化する改正生活保護法が6年10月1日に施行されました。

3	成果や課題は何か(点検・分析)	1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
○高校生世代への支援の推進		
<p>中高生世代の自主的な活動・交流の場として、令和6年度のb-lab来館者(延べ33,146人)のうち高校生の来館者数は延べ18,091人で、前年度よりも多くの高校生の利用があり、中高生が自主的に企画・実施したイベント数は86件でした。利用者満足度は、高い水準で推移していますが、引き続き、中高生世代の自主的な活動を応援する環境整備や、快適な利用環境の整備、地域バランスを考慮した取組を行う必要があります。</p> <p>また、7年5月には新たな居場所として、スタートアップと連携した「AQUABASE(アクアベース)」を開設しました。新たな青少年プラザの建設については、必要な設計を進め、小学生や中高生との対話及びアンケート等を通じて意見聴取しました。回答いただいた意見等は、施設整備や運営方法等に反映していきます。</p> <p>総合相談室では、相談しやすい相談環境等の維持に努め、高校生世代の悩みに寄り添った対応を行って支援しました。</p> <p>さらに、生活困窮世帯の学習支援事業では、進路選択に向けた情報冊子の配布や、大学進学ガイダンス、企業訪問等を実施したほか、音楽や演劇鑑賞等の芸術体験の機会が提供されました。</p> <p>高校生世代への医療費助成を実施し、子どもの健全な育成と保健の向上を図りました。</p>		

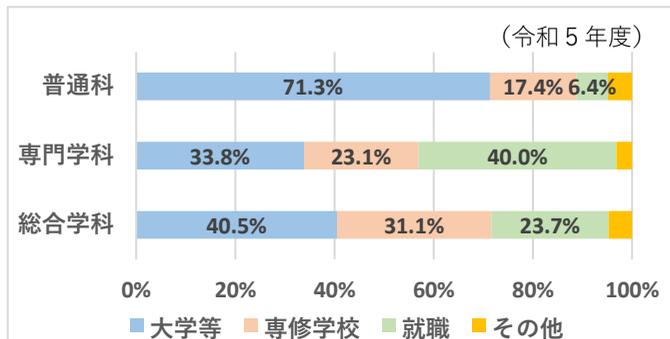
○高校生世代のいる子育て家庭への支援の推進		
<p>令和6年10月の児童手当拡充までの間、高校生世代を養育する世帯に対し支援金を支給することとし、次世代を担う子どもたちの育成を支援してきました。</p> <p>育成支援金や医療費助成の実施によって子育て家庭の経済的負担を軽減したほか、生活困窮世帯に対しては、子ども宅食の配送とこれに伴う見守りの実施により、必要な支援につなげました。</p> <p>総合相談室では、相談しやすい相談環境等の維持に努め、高校生世代とその保護者の悩みに寄り添った対応を行って支援しました。</p> <p>生活保護受給世帯を含む生活困窮世帯の子どもとその保護者に対して、学習の指導だけでなく日常生活の支援などきめ細かく包括的な支援が求められるとともに、子どもの将来の自立のためには子ども本人と世帯の双方にアプローチした取組が効果的とされており、小中学生と高校生世代等の学習支援事業を一体的に実施し、生活困窮世帯の抱える多様なニーズに応じた、包括的な支援を実施することで、切れ目ない学習支援事業の体制を構築しています。</p>		

●学校種別の学習費総額及び構成比 (円)

区分	中学校		高等学校(全日制)	
	公立	私立	公立	私立
学習費総額	542,475	1,560,359	597,752	1,030,283
うち学校教育費	150,747	1,128,061	351,452	766,490
構成比(%)	27.8	72.3	58.8	74.4
うち学校給食費	35,667	9,317	—	—
構成比(%)	6.6	0.6	—	—
うち学校外活動費	356,061	422,981	246,300	263,793
構成比(%)	65.6	27.1	41.2	25.6

資料：文部科学省「令和5年度子供の学習費調査」

●高校生の卒業後の進路状況(学科別)



【SDGsの視点】	
	<p>貧困の連鎖を防止するため、生活困窮世帯の子どもに対する学習支援及び保護者も含めた生活支援を実施しました。 生活環境にかかわらず、等しく医療サービスの提供が行われるよう医療費助成を実施するとともに、子ども宅食プロジェクトでは、食品等の配送による生活困窮世帯に対する支援を行いました。</p>
	<p>子ども宅食プロジェクトにより、子どものいる生活困窮世帯に対して企業等から提供を受けた食品等の配送を行いました。</p>
	<p>総合相談室では、相談しやすい相談環境等の維持に努め、高校生世代とその保護者の悩みに寄り添った対応を行って支援しました。 医療費助成では、子どもへの医療の提供の確保に寄与したほか、児童手当拡充までの間、育成支援金の実施により、高校生世代の育成に対し経済的な支援を行いました。</p>
	<p>高校生学習支援事業では、芸術鑑賞やキャリア教育、企業訪問などの幅広いイベントを開催し、学習支援に留まらない体験型の教育の機会を提供しました。</p>
	<p>様々な環境に置かれている高校生世代に向けて、適時適切に学習や活動の支援、相談、経済的支援等を行うことにより、安心して生活し、自立した大人へと成長できる環境づくりを図りました。</p>
	<p>子ども宅食プロジェクトでは、ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングやコンソーシアムによる運営により多様な主体と協力し、業務分担を行いながら効果的に事業を遂行しました。</p>

4 今後どのように進めていくか（展開）	3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。
<p>高校生世代への支援を行うため、こども基本法をはじめとした国の各方針を踏まえ、医療費助成等の支援を継続していきます。</p> <p>また、貧困の連鎖を防止するため、生活困窮世帯学習支援事業において、小学4年生から高校生世代までの包括的な支援や、保護者を含めた相談支援、キャリア教育、様々な体験活動等を実施していきます。</p> <p>さらに、b-labの利用促進に向けた更なる周知や、大学等との連携事業を推進するとともに、中高生世代の自主的な活動を応援する取組の充実や活動の場を拡充していきます。加えて、区内2か所目となる青少年プラザの建設に当たっては、引き続き中高生の意見を積極的に聴取し、運営方法等に活かしていきます。</p> <p>総合相談室において、高校生世代やその保護者からの様々な相談に対して引き続き寄り添って支援していきます。</p>	